

令和7年度第3回寝屋川市ごみ減量化・リサイクル推進会議

日 時：令和8年2月12日（木）10：00～

場 所：寝屋川市クリーンセンター6階 多目的室

議 題：1 令和8年度寝屋川市一般廃棄物処理実施計画（案）について

2 資源集団回収の実績について

3 その他

出席者：花嶋会長、荻野副会長、西嶋委員、大島委員、秋山委員、竹川委員、掛川委員、野口委員、水井委員、森田委員、斎藤委員、北川委員、森委員、石村委員

次第1．令和8年度寝屋川市一般廃棄物処理実施計画（案）について

（資料1に基づき、事務局より説明）

会 長：それではこの件について何かご意見ご質問等ございますか。

委 員：ごみ排出量の目標について、令和6年度から令和7年度で総排出量が減っていますが、令和8年度は増えています。なぜこのような目標になったのでしょうか。

事務局：令和8年度の目標値につきましては、目標値自体は今回新たに策定したものではありません。令和3年3月に策定した一般廃棄物処理基本計画の目標値を使用しております。令和6年度、令和7年度は目標値を達成している状況になってることからこのような形になっております。

委 員：令和12年度の目標について、現状、早めに達成するのであれば、更に削減をする目標値を設定することや、別の方法を検討するというのも一つだと思います。

事務局：総排出量の削減につきましては、ここまでは順調に削減が進んでおりますが、削減するペースが鈍ってこないかは懸念しており、早めに達成する形で削減できるかどうかは注視していく必要があります。

委 員：目標については削減することがすべてであれば、修正が必要であると思いますが、私は減らすことが全てだと思っておらず、ごみは生活をしていると出るものであり、ごみの分別が厳しいとか、ごみ袋が高いとか、そうなってくると市民の生活に直結してくるので、市民に負担がかかるのは、よくないかなと。住みやすさとは、ごみもある程度気兼ねなく出せるということも関わってくると思います。例え

ば、住民たちのごみを逆に増やすくらいの考え方で運用し、生活がしやすくなってくれば、人口増加にもつながるかと思います。寝屋川市が消滅可能性自治体から解消されたということで人口が増えてきていますので、ごみについてもしっかりと考えて、住みやすさというところを追求できればいいのではないかと思います。

事務局：人口については、今後も減っていくという考えのもと、総排出量の見通しを立てております。ご指摘いただいたように、人口も計画通りに減らないこともあるかもしれませんので、そういったことも視点にいれながら考えていきたいと思っております。

会長：ありがとうございます。他に何かご意見、ご質問等ございますか。

委員：主要な取組で雑紙の分別については、ある程度取り組みやすいかと思いますが、生ごみの水分の削減は努力が必要となってくるので結構大変だなと。これに関しては、ある程度のところで回収しますよというようにところに転換された方がいいと思います。やはり市政というのは、人口を増やすことも大事ですから、ごみの回収もある程度楽にできるというようにところに、もっと転換されることも必要であると思っております。一旦ごみは増えるかもしれませんが、そういった住みやすさを追求される方がいいかなと思っております。

会長：ありがとうございます。他になければ次にいきたいとおもいます。

次第2．資源集団回収の実績について

(資料2に基づき、事務局より説明)

会長：それではこの件について何かご意見ご質問等ございますか。

委員：登録団体が減ってきていますが、今後もおそらくコミュニティが減少し、繋がりも希薄になっていくため、この傾向は続くと考えております。資源の回収に関して、ペーパーレスや新聞を読む方も大分減ってきているので、今後も数量が減少していきます。登録団体数の維持や増やすことも考えると、例えば報奨金、これだけ総額が減ってきているので、単価を少し増やし、できる限り協力をしてもらえるような体制を整えることも1つであると思っておりますがいかがでしょうか。

事務局：登録団体数の減少につきましては、同じ町内で老人会や子ども会などがそれぞれ活動しているところもあり、これらが統合するというような形で登録団体数が減少している状況にあります。単価を上げることにつきましては、現状キログラム

当たり6円というのは、大阪府内でも、高い単価ですので、単価を上げることに
ついては、慎重に検討していかなければならないと考えております。

委員：これだけ報奨金が減っているのであれば、これに代わる何かを明示されていかれ
ると市民のことを考えてくれていると思ってもらえると思うので、この減ったお
金を使い、代わりに何かをするというようなことを考えたらどうかと思います。

会長：ありがとうございます。

委員：私はこども会をしております、毎月第2日曜日に資源集団回収で子供たちと一
緒に回っているのですが、いいコミュニティになっており、これはずっと続けて
いきたいなと思っております。単価の6円については少し上げてもらえると嬉し
く思いますが、今回雪の中でも、子供たちにたくさん来てもらって、集めるのを
頑張っておりますので、そういう団体があるということも、ぜひ覚えていただき
たいと思います。

会長：ありがとうございます。雑紙の袋を小学校で配って、これが雑紙ですよというよ
うな、認知を上げていく取り組みがあったかと思いますが、その取り組みで雑紙
を少し集められるかなと思うんですけど、この数値には反映されていますか。

事務局：雑紙の取り組みは配布させていただいておりましたが、現在は行っておりませ
ん。この取り組みの結果であるとは一概にはいえませんが、令和6年度に実施し
たごみ質分析調査では、前回調査より紙ごみの割合が減ったという結果になってお
ります。

会長：ありがとうございます。

委員：私は老人会で、お届け物などの紙袋があればその中に何でもいいから入れてねと
か言いながら雑紙などを集めているのですが、いろいろなものが簡易包装になってき
たんじゃないかと思えます。今まで2袋を出してたところが1袋で収まるようにな
ってきています。回収のときに、古布の捨て方について、使い古したものはだめな
のかとか仕分けに迷うときがあります。どのようにリサイクルされているのか教え
てください。

事務局：まず、雑紙について、これは紙袋に集めるというやり方はそのまま出すこともで
きますのですごいいいやり方だと思います。古布については、市の収集と資源集団
回収では、リサイクルの方法が違いまして、また資源集団回収業者によっても違い

ますので、契約している業者に確認していただけたらとおもいます。市で収集している古布につきましては、市では古着として回収しており、再利用しますので、使用できるものかどうかといった視点で考えていただけたらと思います。例えば、靴下とかタオルは市の古紙古着には入りません。

会 長：非常に重要なご指摘で、資源ごみがどうなるのかということについて、もう少し情報提供があったらいいんじゃないかとか、あるいはこうなるんだからこういうふうに分けてくださいというような、情報が少し足りないんじゃないかなというお話だったと思いますので、よろしくご検討ください。他に何かご意見ご質問等ございますか。

委 員：最近近くのスーパーで資源回収を24時間しているところがあり、便利なのでペットボトルや発泡スチロールの食品のトレーをそこに捨てていると聞きました。これにより、資源集団回収の量が減っていることに影響しているかなど。資源集団回収ではないですが、以前A地域、B地域のごみ減量の競争があり、いつもB地域が勝っていたのですが、どのようにA地域とB地域を決めているのか教えてください。

事務局：古紙などの資源ごみについて、色々なスーパーでリサイクルされているのであれば、そういったところを活用していただくことも1つであると考えております。A地域、B地域についてですが、令和6年度に「地域対抗！ごみ減量大合戦！！」ということで、広報で啓発させてもらったのですが、A地域がずっと負けている結果になっておりますが、年齢構成や、世帯の構成などが影響していると推測してます。この取り組みは、広報で皆さんにごみ減量についての啓発をする一環として、出来るだけわかりやすいようにと考えて実施しておりまして、各世帯に配布しているクリーンカレンダーに沿ってA地域、B地域と分かれております。A地域、B地域に仕分けしてる理由としては、完全ではないですが、京阪電鉄の線路や大きな道路などで分けたりはしてます。

会 長：ありがとうございます。素敵な質問だったと思うんですけども、現在寝屋川市内に、資源物の回収拠点がどのくらいあるかとか。あるいはスーパーとかでどのくらい回収されてるかなど市は把握していないということでしょうか。

事務局：はい、おっしゃる通りです。

会 長：寝屋川市のスーパー等での回収状況について定性的でも何かおわかりになります

か。

委員：アルプラザ香里園ではトレーやペットボトルなどの回収量はどんどん増えていきます。今後も増やしていこうとは考えていますが、やはりノントレーやノンレベルなど、その辺りはメーカーの努力もあって、簡易包装がどんどん増えてきていますので、今後は減る方向にはあると思います。できる限り周りの方たちが住みやすいよというところで、回収は積極的には進めていこうと思っております。

会長：ありがとうございます。

会長：先ほどA地域、B地域の話ですが、2年ほど前の話でも、皆さん覚えてらっしゃるっていうことは、ある意味広報大成功だったのかなと思うんですけども、そういう印象としてはいかがでしたか。

委員：私はA地域、私はB地域みたいな感じで、会話も少し盛り上がったのでよかったです。

会長：みんなの関心を呼んだんだと思いますが、すごくいい広報の方法だったのかなと思います。

会長：他に何かご意見ご質問等ございますか。

委員：私はごみの減量よりも、資源の回収の方が大事だと思っております。資源集団回収は素晴らしいことですし、ごみを減らす競争も素晴らしいことだと思います。一方で、アルミ缶などの資源ごみを集めておられる方もいるという実態もあります。やっぱり市の資源なので、市民あるいは我々商業者が、何とか回収をして、このような資源集団回収に取り組んでいきたいと思っております。大企業では、地域貢献やごみの減量などについて、事業の中の1つになっているかと思いますが、商店街や個店の場合は、資源箱を置いて、ここに入れてくださいというのはなかなか大変です。零細企業にも、いわゆる資源ごみを集めることができるようなシステムの構築をぜひ行政の方からしていただいて、アルミ缶だとか、古紙、段ボール、雑誌などの資源ごみが、商店街やお店で集めるようなシステムを、寝屋川市の方で検討していただければと思いますがいかがですか。

事務局：市でできることを考えていきたいと思っております。ありがとうございます。

会長：他に何かございますか。

委員：今年度の会議が最後だということで伝えておきたいのですが、ごみの収集でいつ

も月曜日から金曜日まで来てもらってるんですけども、最近の回収にこられるパッカー車のお兄さんたちについて、私たちの自治会の皆さんおっしゃるんですけど、すごい綺麗に回収して帰ってくれるって。私たちも回収後の掃除が楽になって、感謝しております。なぜこう言うかと言うと私の自治会は川を1つ超えると、他市になりますので、他市の収集の方が回収されるのですが、最近カラスが集まって、道路も汚くなっているのに、大きなごみだけ拾って、汚いまま行かれます。それとうちの地域を比べられて、寝屋川市はよかったねっておっしゃる方が結構いらっしゃるので、回収の方達は寒い中、雨の中、とても感謝しておりますので一言、お礼を申し上げたいなと思っております。ありがとうございます。

会 長：はい。とてもいいご意見ありがとうございます。

委 員：今委員が言われたことが、本当に大事かなというところで、この会議はごみ減量化ということなんですが、思い切って、このごみだけについてはごみ増量化など、要はそれだけしっかりとこの寝屋川は住民の方たちにやさしいですよということをアピールするっていうことも非常に大事かなと思います。これが人口を増やすことや、活性化にも繋がるというところで、思い切ってそのような計画を立ててみたらどうかと思いました。

会 長：ありがとうございます。他になければ、次にいきたいとおもいます。

次第3. その他

事務局：次回会議の日程は6月を予定しております。また日程が決まり次第、皆様にご案内させていただきますので、よろしく願いいたします。

会 長：ありがとうございます。他にご意見ご質問等がなければ、本日予定しておりました案件はすべて終了しました。